

行歯会だより

第119号



(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会)

平成 29 年 4 月号

1. 行歯会第4期役員挨拶 ①

会 長	長 優子
副 会 長	高澤 みどり
	山田 善裕
事務局長	安藤 雄一

2. 若手奮闘記 No. 12

岡山県保健福祉部健康推進課 沖野 雄一郎

1. 行歯会第4期役員挨拶 ①

●会長挨拶

行歯会 会 長 長 優子

(江戸川区健康部健康サービス課 葛西健康サポートセンター)

行歯会第4期会長を務めさせていただくことになりました。会長の続投に当たり、ご挨拶を申し上げます。

行歯会が発足し今年度で13年目となります。立ち上げ当初250名だった会員は、現在700名を超えました。この4年間で振り返ると、歯科口腔保健法の施行(平成23年)と並行して全国で次々と歯科保健条例が制定され、口腔保健支援センターの設置等も追い風となり、一時は停滞していた行政への歯科技術職の採用が増え、世代交代も進みつつあることを実感してきました。

また、急速に進む少子高齢化に伴い、国は一億総活躍社会の実現を掲げ行政の課題も大きく変化し、私達歯科技術職の担う役割も変わりつつあります。例えば健康格差の縮小では、全国で実施が拡大するフッ化物洗口が注目され、効果を科学的に立証する研究がなされました。

これまで積み上げてきた地域歯科保健に加え、子育て世代包括支援、受動喫煙防止、糖尿病をはじめとする医科歯科連携、がん対策、地域包括ケアシステムの構築、フレイル予防、災害対策等々、キーワードを上げるときがありませんが、これらを具現化していく4年間になると感じています。全国一律ではなく各自治体の地域特性に合わせた施策と実効性が求められる中で、歯科技術職が行政にいることは大きな意味合いを持ち、専門職と行政職と二つの力を発揮することを期待されています。



これからも会員皆様のご活躍にスポットをあてながら、それらをつなぎ行歯会だからこそできる事を一つずつ実現していきたいです。例えば、各地域の様々な事例の掘り起しと発信です。タイムリーかつ具体的な情報は地域へと還元でき、同じような課題に取り組む際の原動力となります。また、若手の育成や、各種学会や研修会等で会員同士が繋がる場を作っていきたいです。私達は少数職種だからこそ、時に行き詰まり、多くの仕事を抱え込みがちですが、行歯会を通じて、諸先輩方はじめ全国の仲間の頑張りや優しさにホッと心が軽くなれば良いなと思います。私自身を育ててくれた江戸川区の仲間と、行歯会会員の皆様に心から感謝しつつ、また一步前に進んでいきたいと思っております。

新理事の皆様と共に会員一人一人の力を結集し、行歯会のさらなる発展、そして日本国民に世界最高水準の歯科保健を提供することを目指して参ります。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(参 考)

8020 推進財団：都道府県歯科保健条例制定マップ（<http://8020zaidan.or.jp/map/index.html>）

NPO 日 F データ集：2016 年フッ化物洗口マップ（<http://www.nponitif.jp/2016FMRmap.pdf>）

行歯会だより 116 号：フッ化物洗口の取組～各地のレポート～

（http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/contents/No116_201701.pdf）

●副会長挨拶

行歯会 副会長 高澤 みどり (千葉県市原市保健センター)



行歯会第 4 期執行部で、副会長を務めさせていただきます、市原市保健センター歯科衛生士の高澤です。副会長は第 2・3 期に引き続き、3 期目となります。全国的に歯科職種は世代交代が続いている中、最後のお勤めとして長会長を支え、みなさまに恩返しをしていきたいと考えております。あ、すみません、正確には長会長に支えられています(笑)。

第 4 期執行部の任期は、東京オリンピック・パラリンピックの年が最終年度となります。何だかすぐそこで手が届きそうなイメージもありますが、個人的には私も公務員生活最後の 4 年間となりますので、悔いのないものにしたいと思っています。

2005 年 6 月の行歯会だより創刊号で、初代会長の石上和男先生は「なんでもやれる行政マンをめざそう!」と会員に呼びかけています。当時は漠然とわかっているつもりではいましたが、この言葉は本当に重要なこととここ数年痛感しています。私が勤務するような一般市町村の歯科衛生士においても、この言葉はいつも心の片隅に置かなければならないと思います。

所属する自治体によって、専門職に求められている役割は違うと思いますが、公衆衛生マインドを活かしながら施策や業務を粛々と遂行し、チャンスがあれば、是非飛躍してほしいと願っています。そして、全国の仲間とつながってそれを支えていける行歯会、第 1～3 期執行部でご尽力いただきました諸先輩の思いも胸に、次の世代に繋いでいきたいと思っています。

行歯会 副会長 山田 善裕
(東京都教育庁)



東京都教育庁の山田善裕です。私は行歯会が産声をあげた時以来、主に現在の保健医療科学院メーリングリストに移行する前の、メーリングリストや会員の管理をさせていただいておりました。長らく事務担当理事の立場でありましたが、今回、長会長を支えるべく初めて副会長を拝命いたしました。重責で身の引き締まる思いであります。

昨今、全国で喫緊の課題である地域包括ケアシステムの構築や在宅療養の現場で声高に叫ばれているキーワードは多職種の連携です。全人的に、その人の生涯をその人らしく最期まで暮らしていくためには、その人に関係する多職種の連携が不可欠ということです。我々、歯科医師や歯科衛生士は、歯や口の健康を守るべく、「全身の健康は口腔から」を旗印に様々な活動をしてまいりましたが、これからはさらにその重要性が増してまいります。特に私たち行政の歯科専門職は、職場はもとより、地域の様々な人々と連携して、そういったミッションを遂行する義務があり、要となれる立場だと思います。要として機能するためには、やはり知識や情報を得ることは、大変重要なことでもあります。しかし、今回の私もそうですが、大抵の現場では一人職種であることが多いと思います。今はインターネットで様々な情報を収集することは容易になりました。さらに行歯会では予めよりメーリングリストを活用して、会員同士が情報共有を図ったり、質問したりでき、あたかも間近に仲間がいるかのような環境を初期の段階から実現してまいりました。今後も会員の皆様におかれましては、積極的行歯会メーリングリストを活用いただき、一致団結して、日本国民に世界最高水準の歯科保健を提供することを目指していただければと思います。

●事務局長挨拶

行歯会 事務局長 安藤 雄一
(国立保健医療科学院)



行歯会設立以来、事務局を担当しております国立保健医療科学院の安藤雄一です。

国立保健医療科学院が果たすべき役割のひとつ日本各地の方々との「ネットワークづくり」があります。その意味で行歯会はまさにうってつけの仕事だという認識で、設立以来、関与させていただいております。

設立当初、メーリングリスト（当初は民間のYahoo!でしたが）により全国各地が「つながり」、それまでに比べてお互いの情報交換が格段に進んだという実感が強かったのですが、10年余を経過しますと、正直なところ、もっと情報交換・意見交換があっても良いような気もしています。行歯会の「命綱」といえるメーリングリストには700人以上の会員がいて双方向のコミュニケーションが難しい環境ですので、別の方法を考えなければいけない時期を迎えているのかもしれない。

情報のやりとりに関するギブアンドテイク（Give & Take）は結構シビアな関係があり、「情報は、情報を提供する人に集まり、提供しない人には集まらない」という傾向が顕著です。情報が欲しかったら自ら発信する姿勢が必要だということです。ただし、予防と同じで個人の努力には限界がありますから、組織的にそのように仕向ける工夫が必要です。

「行歯会だより」はある意味、その役割を果たしていると言えますが、それだけでなく、会員各位が日常的に情報発信して上手い具合に整理されて会員に伝わり日常業務に反映される、といった流れをつくれないものかと思っている今日この頃です。

これからもよろしくお願いいたします。

==== 第4期（H29-32） 行 歯 会 役 員 一 覧 ====

会 長	長 優子（江戸川区）
副会長	高澤 みどり（市原市）・森木 大輔（宮崎県）・山田 善裕（東京都）
事務担当理事	芦田 慶子（豊島区）・石川 明美（松戸市）・石田 圭吾（群馬県） 加藤 千鶴子（神奈川県）・白井 淳子（東京都）・田村 光平（東京都） 原田 志織（東京都）・森谷 俊樹（岩手県）・柳澤 智仁（渋谷区） 吉野 ゆかり（船橋市）
ブロック理事	
北海道	佐々木 健（北海道）・久米田 万里（函館市）
東北・甲信越・北陸	清田 義和（新潟県）・高橋 明子（仙台市）
関東Ⅰ	中山 竜司（栃木県）・高澤 みどり（市原市）
東京	山田 善裕（東京都）・長 優子（江戸川区）・岸井 奈緒子（町田市）
関東Ⅱ	渡辺 晃子（神奈川県）・小池田 幸子（さいたま市）
東海	中村 宗達（静岡県）・金森 いづみ（名古屋市）
近畿	堀江 博（奈良県）・黒田 千恵（堺市）
中国・四国	岡田威一郎（山口県）・柳本 祥子（高知県）
九州・沖縄	森木 大輔（宮崎県）・比良 ゆかり（鹿児島県）
事務局	安藤 雄一（国立保健医療科学院）

※世話役は、現在調整中です。

2. 若手奮闘記 No.12

岡山県保健福祉部健康推進課
沖野 雄一郎



【はじめに】

行歯会の皆さま、いつも大変お世話になっております。

岡山県保健福祉部健康推進課の沖野と申します。

平成 27 年度に入庁し、気がつけば 3 年目に入りました。岡山県と縁もゆかりもなかった私が、周囲の

方々の助けをいただきながら、日々の業務に取り組んでいる様子などをこの機会を通じて紹介したいと思います。

【自己紹介】

私は生まれも育ちも北の大地、北海道です。北海道大学を卒業した後、母校の予防歯科学教室で研修医、大学院生活を経て、1年間学術研究員（薬理学教室）として過ごしました。大学在学中は診療や研究をはじめ、離島診療従事、市町村での歯科保健指導、専門学校の講義などさまざまな経験をすることができました。

このような貴重な経験をするなかで、行政で仕事をしたいという気持ちが大きくなり、歯科医師を募集していた岡山県に応募し、現在に至ります。

岡山県には入庁の2年前に学会で1度訪れたことがありました。当時は、まさか、そこで働くことになるとは夢にも思いませんでした。

【岡山県について】

本県は、人口約191万人、27の市町村からなる県で、東は兵庫県、西は広島県に隣接し、南は瀬戸内海を臨んで四国に、北は山陰地方と接しています。日本三名園の1つ、後樂園や岡山城、倉敷の美観地区等の名所があり、食べ物では、桃やマスカット、ママカリ、きび団子などが名産です。また晴れの日が多く、「晴れの国」とも呼ばれています。



岡山県マスコット「ももっち・うらっちと仲間たち」

【岡山県の歯科保健行政】

本県の歯科専門職の配置について、県庁に歯科医師1名、保健所に歯科衛生士が1名、非常勤歯科医師1名（岡山大学予防歯科学教室より）となっております。



入庁してからは、まず事務について、起案や公文書の書き方などを先輩職員から教わりました。特に行政特有の文言などに慣れるまで時間がかかりました。また行政の仕事をしていくなかで特に難しいと感じたことは、事業計画についてです。限られた予算や制約の中で短期的、中長期的な目標を設定し、優先順位を決め、関係機関・団体等と調整しながら実施していく難しさを実感しました。

さらにさまざまな活動を経験していく中で、「伝える」ことの難しさを実感しています。限られた時間で端的に、内容を正確に伝えられるように努めていますが、なかなか自分が思うようにできずもどかしい思いをすることが多々あります。

いろいろと揉まれながら2年目の昨年度は、県歯科医師会と「災害時における歯科医療救護活動に関する協定」の締結や「第2次岡山県歯科保健推進計画」の策定などを無事に行うことができました。

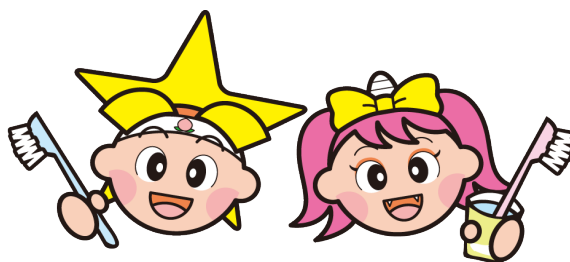
今後は、新たに策定した計画に基づき、県内の実情などを踏まえながら、関係団体と連携・協働し、歯と口の健康づくりに取り組んでいきたいと思っています。

【最後に】

これまで、臨床、研究、教育、行政とさまざまな立場で歯科保健に従事することができました。そのなかで共通して、「人との出会い・つながり」の重要性を感じます。

岡山県においても、知り合いがほとんどいない中、北海道時代に知り合った方を通じて出会った方や職場の先輩職員に助けられ、今日に至ります。

人との出会い・つながりを大切に、これからも職場の諸先輩方をはじめ、行歯会の皆様にご指導いただきながら、日々精進してまいりたいと思います。今後ともよろしくをお願いします。



岡山県マスコット「ももっち・うらっち」

☆ 編 集 後 記 ☆

新年度になり、行歯会も第2期長執行部による新体制がスタートしました。
今期も引き続き事務担当理事を拝命しましたので、皆さま、よろしくお願いいたします。
まずは、行歯会だよりの記事の充実を図りたいと思います。（T）

同じく今期も事務担当理事を拝命致しました。精一杯務めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。（Y）

「歯っとサイト」掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web媒体（リンクをはる）場合は、下記URLへ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛にご連絡ください。